

**札幌新まちづくり計画市民会議
環境・都市機能分科会第3回会議概要録**

日 時 平成16年2月7日(土) 15:00~17:00

場 所 経済センタービル 7階 中会議室

出席者 小林英嗣 会長 ・ 中井和子 副会長
大坂 紫 委員 ・ 太田幸雄 委員 ・ 中島 洋 委員 ・ 林 雅之 委員

次 第

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 今後の分科会の進め方
 - (2) 事務局説明(資料「ビジョン編に向けての市の素案」)
 - (3) 意見交換
- 3 閉 会

議事の概要

最初に、資料1「ビジョン編 構成イメージ」及び資料2「ビジョン編に向けての市の素案」について事務局から説明を行った。引き続き、「安全・安心のまちづくり」(小林会長提出)及び「都心部小学校跡地利活用説明会配布資料」の2点の参考資料について、事務局が説明を行った。

その後、意見交換に入り、主に資料2について活発な議論が行われた。

意見交換の概要

資料2「ビジョン編に向けての市の素案」について

全体

- ・ 4つの重点戦略課題は総合的にリンクするものだということが掲げられていないければいけない。その意味で「望ましい姿」は全部の重点戦略課題がつながった、物語の文脈としてつながっているものがイメージできるようなものでなければならないが、現在のものはそれがほとんど分からない。（中井副会長）
- ・ それ以前に、基本目標の前提となる「望ましい街の姿」がないといけないかも知れない。（中井副会長）
- ・ 自発性と規制という方向性があるが、これからは自発性という方向性が大切だと考える。（中島委員）

Q 「施策の基本方針」、あるいは「施策」ごとに役割分担をまとめたほうがいいのではないか。（大坂委員）

- A 「施策の基本方針」「施策」は行政がやる部分。また、行政以外の主体にこのレベルで細かく期待することはなかなかできない。（事務局）
- ・ 誰がどうやって望ましい姿を実現するのかが、今我々が議論しなくてはいけないこと。そのときに、指標などで市民・NPO・企業の役割分担がわかるようなことがあれば、参加に結びつくこともあり得る。（小林会長）
 - ・ いろいろな人たちが自分たちが参加できていると思えるかどうかが大切。いろいろな参加可能性があると思えれば自発性が出てくる。（中井副会長）
 - ・ 議論に参加しているとわかるが例えば市の広報に載ったときに読んでわかるかということがある。1つの例を出してはどうか。例をださないと抽象のもので終わってしまう。何らかの形で、それぞれのパートで1個でも例を盛り込めないか。（中島委員）
 - ・ 市の素案につなげると、施策のところで場所を特定するなど具体的に置き直すと分かりやすくなる。（小林会長）
 - ・ 最終的には実現していく方向で考えたい。少しでも実現できるようなことを載せることが、結果として市民の大きな指示を得られることにつながる。景観の問題でいえば、駅前通だけは看板を規制するなど。（中島委員）
 - ・ 駅前通と大通は市民にとって表通というだけではなく、そのまちなみ景観は観光資源でもある。市民にとって快適で誇れるまちは同時に貴重な観光資源であると広がりを持たせて見ていきたい。観光は観光だけで見ていると広がりがなくなる。（中井副会長）
 - ・ 形にしていくことが重要。それぞれのテーマで一つずつでもいいからモデルケースをつくれないだろうか。そういうまとめ方にしたい。（中島委員）
 - ・ 3年間では数値化できないが、LRTの問題など将来的にはやってほしいという課題についても提言に載せたい。（太田委員）
 - ・ 「こういう方向もあるが、市民が経費を負担する覚悟ならばできる」と市民に対してPRする書き方も考えられる。（太田委員）

重点戦略課題：地球環境問題への対応と循環型社会の構築

- ・ CO₂にも関わる都心の交通渋滞を緩和してほしい。（太田委員）
- Q 交通については、駐車違反の徹底取り締まりしかないと思うが、それはできないのか。（中島委員）
- A 規制については、道路管理者である道警が権限を持っている。市が規制、人的な対応をするという議論もある。行政の縦割り構造をどうクリアするかということになるが、バスの優先レーンでの工夫やバス協会が人手を出すといった試みをしている。また、市民それぞれが規制しあう取り組みもあってもいい。（事務局）
- ・ ヨーロッパでは、市が道路の交通、信号制御をしている。公共バスにテレビカメラをつけ、レーン違反のナンバーを映すなど。（小林会長）
- ・ モデルケースとしてある地域で町内会と警察が連携して徹底してやることもある。（中島委員）

重点戦略課題：ゆたかな冬の暮らしの実現

- ・ 冬、市民は雪対策で困っているので、重点戦略課題「ゆたかな冬の暮らし」に「快適」とか「安全」という視点のものを入れてほしい。（仮称）戦略目標には、快適な冬の暮らしができるように雪対策をちゃんとやりますということを入れてほしい。（太田委員）
- ・ 全体を通じて「ゆたか」という言葉を使いすぎ。（中井副会長）
- ・ 重点戦略課題「ゆたかな冬の暮らしの実現」を「快適な冬の暮らしと活動の実現」とすれば、高齢者、障がい者を含めて誰でも活動できるようにするという視点が入ってくる。（中井副会長）
- ・ また、冬の活動を快適に実現するにはどうしたらしいかという項目を入れてほしい。「冬期間の歩行者空間の安全性の確保を図る」が強調された形で出てくるといい。（中井副会長）

重点戦略課題：歩いて暮らせるゆたかで快適な街の創造

- ・ 「バリアフリー」にはフィジカルな面と心などの面があるので、この言葉は慎重に使ったほうがいい。（小林会長）
 - ・ フィジカルな部分だけを我々は議論しているが、そうでない部分も含めて実現していくなければならない。（小林会長）
- Q 地下道に関して「将来の公共交通も考えた視点」があるということだが。（中島委員）
- A まだ計画を作成している最中である。地上の車線数の2車線化と、その片側に公共交通を導入できるような形にという意見がある。（事務局）
- Q 創成川アンダーパスについてはどのような検討状況と考えればいいか。（中島委員）

- A 今は課題点を浮き彫りにした段階である。次年度以降も議論を続けなくてはならない。
(事務局)

成果指標

- Q 数値目標があり、目標像については具体性があるが、施策についての具体性は、どのような状況にあるのか。(林委員)
- A 資料2に「施策」という項目があるが、ビジョン編の後に検討する重点事業編で、これに沿って事業を組み立てていくこととしている。(事務局)
- Q 中には、すでにかなり具体的にできている施策もあるのか。(林委員)
- A 来年度の予算に盛り込まれ、具体化しているものも相当程度あるが、重点事業編で改めて検討していくものもある。(事務局)
- Q 「CO₂を10%削減」というのが、例えば、自動車の数量や灯油の使用量に直すとどうなるのかを出せるのであれば明記してほしい。(太田委員)
- A 実は札幌市でCO₂がどれだけ出されているのか最近の数値は、まだ分かっていない。その指標のバロメーターづくりを現在やっているところである。また、将来的にも具体的な施策と10%削減をリンクさせるのはかなり難しいと考える。(事務局)
- Q CO₂の10%削減の基準時点はいつか。(林委員)
- A 1990年を基準としている。(事務局)
- ・特に雪対策について、どういう水準を設定し、それを守るためには行政、市民は何をどうすればいいのかを議論し、市民と行政の行動規範をつくっていくことが大事。それはCO₂の10%削減についても同様である。(小林会長)
 - ・成果指標「市民の協力による歩道への滑り止め材の散布」はビジョンの実現とどうからんてくるのか。むしろ滑りやすい道をつくったことが問題である。(中井副会長)
 - ・指標項目の選び方は慎重にした方がいい。指標項目は課題実現にプラスに働くないと意味がない。(中井副会長)
 - ・成果指標「市民の協力による歩道への滑り止め材の散布」だけ細かすぎる指標である。(小林会長)
 - ・指標は分かりやすく市民一人ひとりがまちを良くするために実感をもって貢献できるものがいい。例えば植樹本数を指標にして、市民が植樹することで貢献できるとか。(大坂委員)
- Q 緑の管理の発注形態の割合を緑の創出・保全に関する指標にできないだろうか。(小林会長)
- A 公的管理以外の市民の自発的な活動についてはとらえていないが、その情報の収集については検討している。植樹への参加者人数についても考えてみたい。(事務局)
- Q 「最近、記念植樹がない」という発言があった。(中島委員)
- A 市主催の市民植樹祭は年1回行っているが、2回に増やすことも考えている。市民レベルでの小さな植樹は結構やられているが、その情報についても収集、広報を検討している。(事務局)
- ・例えば、大通公園の一角を記念植樹コーナーとし、自由に植樹ができる形にするとい

うことも考えられる。そういう象徴性があった方がいい。（中島委員）

- Q 地域住民が参画した街区公園改修の数や割合を増やすということを指標にできないか。（小林会長）
- A 街区公園の改修は今ほとんどワークショップ形式でやっている。ただ、この形式（自由参加形式）には一部の人たちだけが集まって物事が決まってしまうという問題点もある。（事務局）
- 環境に関する指標の結果を3年で出すというのはつらいと思う。（太田委員）

文化資料室について

- 現在の文化資料室の使い方は市民にオープンにしてほしい。そうすれば、歴史的建造物をどのようにこれから使っていくかという、市民参加型のモデルケースになる。（中島委員）

コンパクトシティについて

- 仮に札幌市の市街地を10%縮小すれば毎年10億円の財源が節約できる。（林委員）
 - 札幌市的第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域の3分の1を用途転換すれば約10%市街地の縮小が可能である。（林委員）
- Q どのくらいのスパンで考えているのか。（小林会長）
- A 数十年のスパンである。（林委員）
- Q 郊外部は社会資本整備を直近にしてきたことがある。（小林会長）
- A 直近でそれを削減することは無理なので、相当長いスパンを見越して、今から計画を立てる必要がある。（林委員）

まちづくりセンターについて

- 市内部でつくっているらしいまちづくりセンターのアイデアだが、市民が考えることと隔たりがあるのではないかと疑問に思った。（大坂委員）
- こういうものもあるという情報、大坂案を出してほしい。（小林会長）
- NPO的な方向に動きを持っていけるかどうかが、この3年間で重要なこと。そのためには参加の方法をシステム化することが重要。（中島委員）
- ある場所が特定の集団だけに占有されてしまうと、市民からどんどん離れていくということに注意しなくてはならない。困ったときに相談できるようなものということがある。（小林会長）
- 核になるNPOの集合体のような場所をイメージしている。それは中央センターではなく、あくまで並列化したネットワークの集合体である。それが都心と地域にあることで、システムが変わる可能性がある。（中島委員）
- これからは高齢者と若い人の積極的活用が大切だと思うので、高齢者が自由に出入りできる場所にならないといけない。（中島委員）

次回の議論について

- ・ 各委員には次回までに素案を修正してもらいたい。（小林会長）
- ・ 成果指標についても提案してほしい。（小林会長）